

資料渉猟余話

その128

大正期の旧派俳句。会の句会(運座)は、一方、今回発見の玉齊俳句資料を見ることができた。玉齊俳句と、旧派側は、大正期にも、江戸時代の「万句寄」「万句合

明治・大正期の句興行の行われ方として、新派側は、明治31年発足の飯田の松聲会が、発足当初から、参加者全員による互選で点をつけ合っていたことが、句会記録からわかって

の契(写真①)といふので、集金がされ

印刷の句集が6号分あり、その中に句会の実施案内があった。そこには次回句会のお題や締め切り日、主催者、集まる場所、宗匠が選句できるように投句一覧表を作った。今回の玉齊俳句資料には、この投句が行われていた

大正期 旧派俳句会の楽しみ

竹村 雄 次

の契(写真①)といふので、集金がされ印刷の句集が6号分あり、その中に句会の実施案内があった。そこには次回句会のお題や締め切り日、主催者、集まる場所、宗匠が選句できるように投句一覧表を作った。今回の玉齊俳句資料には、この投句が行われていた



写真① 『伊那の契』

部数が作られたものと思われ。現在、その後のいよいよ句会(運座)となる。句会では、作品検討なども行われたと思

選句用の句稿を受取った宗匠たちは、秀逸句や「天・地・人」等の優秀作を選

筆書きの一点物を回覧していたことを思えば、大正の技術進歩を喜んだはずだ。

の契(写真①)といふので、集金がされ印刷の句集が6号分あり、その中に句会の実施案内があった。そこには次回句会のお題や締め切り日、主催者、集まる場所、宗匠が選句できるように投句一覧表を作った。今回の玉齊俳句資料には、この投句が行われていた

宗匠が選句用に使った投句一覧表。句会では「一等八枚、二等四十枚、三等三十枚(後略)」が贈呈され、本評二名、副評二名と、條與集というお題のある句に対する評者二名、の宗匠



写真② 宗匠が選句用に使った投句一覧表

「一等八枚、二等四十枚、三等三十枚(後略)」が贈呈され、本評二名、副評二名と、條與集というお題のある句に対する評者二名、の宗匠